

## History of Tokyo Painting Society

Hiroyuki Suzuki

Tokyo Painting Society

The Tokyo Painting Society (TPS) was founded in 1948, about fifty years ago, when Japan was in post-war chaos and transition from militarism to democracy. Since then, the TPS has reflected Japan's political and educational situation as well as made continuous efforts on the research and practice of art education.

The TPS has been putting much emphasis on on-the-spot theory all the time; namely, it holds that students' performance of modeling in class should play a leading role in art education.

In terms of modeling art education, the over-fifty-year TPS not only is one of Japan's pioneers in the field but also has a far-reaching influence on schools throughout Japan. That is because the society is composed of art teachers at elementary schools in greater Tokyo.

Let me introduce TPS' history in five periods:

### 1. From 1948 to 1956 (The fledgling period)

The TPS was founded owing to the efforts of a group of people with lofty ideals after World War II came to an end. Children began to be regarded as the center of education, and great stress was placed on creation in art education. Moreover, it assigned teachers specialized in art education to teach at elementary schools in the Tokyo metropolitan area for the first time. During the latter part of this period, unified textbooks were used as a result of change of national policy.

### 2. From 1957 to 1966 (Going against the Ministry of Education)

This was the time when Japan's teachers' association confronted with the Ministry of Education over the necessity of art education. In 1960, the first TPS

meeting was held. In the same year, the American-Japanese Security & Protection Pact was signed, and a series of protests and demonstrations flared all over Japan. Moreover, new teaching guidelines were released and legally had binding force.

3. From 1967 to 1979 (Promoting education reform and opposition campaign)

In 1967, it was the first time that the post of TPS chairman was held by an art teacher. The government published new teaching guidelines. Two years later, TPS children painting won a gold medal in the contest held by the INSEA in Yugoslavia. In 1970, the central education reviewing committee was organized to look for new educational approach. Moreover, it was proposed that art classes should be given in the afternoon. This proposal aroused strong opposition from the modeling art circle. In 1977, teaching guidelines were revised and released again and stressed easy but rich teaching contents.

4. From 1970 to 1984 (Dispute over the necessity of specialized teachers and establishment of studios)

In 1970, the government had intended to reduce the number of specialized teachers; however, members of the TPS joined efforts to stage petition campaigns and the government reversed that decision. In the same year, at the TPS research meeting, it was announced that Japan's first studio was established. The next year, the TPS released its first publication, "Children Who have an Appointment With Art Materials" (a record of studio activities). In 1981, German Harmen Brukherd was invited to Japan to give speeches. The translation of his book "Art Curriculum and Children Painting in Today's Germany" also came out the following year.

5. From 1985 to 1993 (Enhancing research and practice and continuing its publications)

The TPS continued its efforts about research and practice of appreciation education. Besides, it collected its achievements and published a journal entitled "Towards a Beautiful Place--Practice of Appreciation Education." In

the meantime, it was moved that students go to school only five days a week, and its members began to stage campaigns against the reduction of the school hours of high schools. Then, it published "Simple Theory" and "Art Scramble." Moreover, with the help of museums, it organized people to visit museum. Records of its experimental teaching continued to be published.

## 「東京都圖畫工作研究會之歷史」

### 東京都圖畫工作研究會

#### 鈴木弘之

東京都圖畫工作研究會成立於一九四八年，至今已約有五十年的歷史。該會成立時正值二次大戰結束後的混亂期，也就是剛由原來的軍國主義，急轉為民主主義的時期。成立之後，東京圖畫研究會除不斷地進行美勞教育的研究與實踐外，另一方面也適時地反應出當時的政治、教育狀況。

到目前為止，該會主張的是現場主義，也就是強調應注重學童在課堂上的造型表現，認為學童才是主導美勞教育的主角。

擁有近五十年歷史的東京都圖畫工作研究會，不但是日本造型美術教育的先驅，也深深地影響全日本的造型美術教育。原因是位於東京都內的每個小學中，皆有專門教授美勞課程的教師，而且此研究會的成員為來自不同學校且各有專長的教師。

接著我們以十年左右為一個階段，將此研究會五十年的歷史分為五個階段逐次說明：

#### 1. 一九四八年～一九五六年（黎明期）

在一群有志之士的努力下，研究會終於成立。二次大戰結束，開始了民主式的教育，有人嘗試視兒童為教育之主角的教育方式，當時的美勞教育主張創造主義教育。另外特別值得一提的是：首次派任專門教授美勞科目的教師至東京都內的各小學。後半期時，由於國家政策的改變，因此改採全國統一教材。

#### 2. 一九五七年～一九六六年（與教育部唱反調）

此時期為日本教職員工會與教育部對立的時期，為了美勞科教育存廢與否的問題，雙方各發起一連串的相關運動。一九六〇年，召開第一次東

京圖畫工作研究大會。同年通過美日安全保護條約，反對此條約的運動開始遍及日本各地。此外，頒布新的教學要領，且具有法律上的拘束力。

### 3. 一九六七年～一九七九年（推動教育改革與反對運動）

一九六七年，首次由美勞科教師擔任研究會會長。政府又頒布新的教學要領。一九六九年，東京都圖畫工作研究會的兒童畫於南斯拉夫舉行的 I N S E A（國際美術教育學會）中獲得金牌獎。一九七〇年，成立中央教育審議會，以「眾所期待的人間像」為主題，開始摸索新的教育方式。此外，由於有人建議應將美勞科的課程排在下午，因而引起全日本造型美術關係者的強烈反對。一九七七年，再次頒布新的教學要領，此次強調的重點是輕鬆且充實的教育內容。

### 4. 一九七〇年～一九八四年（專門科目教師的存廢運動，成立工作室）

一九七〇年，政府原打算刪減專門科目教師的人數，但由於研究會成員團結一致，對相關行政單位展開反對刪減人數的請願活動，終於得以維持原狀。同年，於東京都圖畫工作研究大會中，向全國公布成立第一間工作室，頗受各方注目。隔年，出版了第一本刊物「與材料有約的小朋友」（內容為工作室的記錄資料）。一九八一年，邀請德國的哈曼·布魯克哈德到日本演講。此外，隔年又發行哈曼的作品「現今德國的美術課程與兒童繪畫」的譯本。

### 五、一九八五年～一九九三年（加強研究與實踐，持續出版刊物）

持續鑑賞教育的研究與實踐。此外，將研究與實踐成果收集成冊，以「迎向美麗的領域—新鑑賞教育之實踐」為名，出版刊物。同時，由於教育改革的腳步急速加快，有人提出改為每週上課五天的建議，於是研究會成員投入反對中學上課時數減少的活動。之後又發行了「素朴的原理」以及「ART SCRAMBLE」兩份刊物。此外，還與美術館共同舉辦參觀美術館的活動。另外還持續發行實驗課程的記錄資料。

# 東京都図画工作研究会 50年の歴史

東京都図画工作研究会  
鈴石 弘之

はじめに

東京都図画工作研究会は、昭和23年の会発足以来50年を経ようとしている。軍国主義による国家統制の教育から、戦後の民主主義教育への大転換の、自由謳歌の時代に、本会は発足した。以来、時々の状況を反映しながら、図画工作教育の研究実践を展開してきた。この間、一貫した主張は、子どもの造形表現を見据える、現場主義であり、子どもが主人公の図画工作教育を指向してきたのである。

また、この50年間は、造形美術教育の先駆として、日本国の造形美術教育に多大の影響を及ぼしてきた歴史でもあった。これは、全国唯一、東京都全体の小学校に専科教員が配置され、専門教師による研究団体であったことが大であったように思う。

以下、東京都図画工作研究会50年の研究史を、社会情勢とからめ概観する。

(\*印は東京都図画工作研究会、・は教育関係及び社会情勢)

## I 1948年～1956年 (黎明期)

1948年 \*有志によって東京都図画工作研究会発足。

・第1回全国図画工作科教育研究大会開催。

・前年に日本国憲法が施行され、国民主権の民主主義による国政の実施。

1949年 ・連合軍主導によるレッド・パージの嵐がふく。

1950年 ・朝鮮戦争勃発。第2次アメリカ教育視察団来日。文部省「国旗掲揚、君が代斉唱」を通達。

・民間教育団体「日本教育版画協会」発足。

- 1951年 \*都内に図工専科教諭を配置開始。写生大会が都内各地で開催。
- ・INSEA発足。第1回のユネスコ美術教育会議がイギリスで開催。
  - ・指導要領の改訂。(図画工作の領域は、描画・色彩・図案・工作・鑑賞の5領域。小中高とも教科名は図画工作)
  - ・サンフランシスコ対日講話条約調印。

- 1952年
- ・民間教育団体「創造美育協会」、「新しい絵の会」発足。
  - ・日本美術教育連合発足。

- 1953年
- ・文部省による教科書検定制度の施行。
  - ・朝鮮戦争休戦。

- 1954年
- ・第1回INSEAパリ会議開催。ワルター・グロピウス来日。

- 1955年 \*第8回全国図画工作科教育研究大会、本会の主導で開催。テーマ「現下の図工教育を阻むものはなにか」
- ・民間教育団体「造形教育センター」発足。

- 1956年
- ・教育課程改訂に対し、日本美術教育連合反対運動を組織。
  - ・文部省は、高等学校図画工作科を芸術科美術工芸と改称。

## II 1957年～1966年(文部省との対立)

- 1957年
- ・全国図画工作振興対策委員会発足。教育課程改訂反対運動を展開。反対運動の主旨は①中学校のコース別教育反対②図工科必修の確保と時間数の増加③美的情操の教育こそ道徳の基礎④デザイン教育なくして産業の振興なし⑤造形感覚の陶冶は科学技術の基礎。
  - ・日本教職員組合、勤評阻止の戦いを展開。

- 1958年
- ・第11回全国図画工作科教育研究大会、文部省へ要望書提出。
  - ・文部省、小・中学校指導要領を改訂。主旨は①道徳教育の充実②基礎学力の徹底③科学技術の重視。また中学校図画工作科を廃止し、美術科・技術家庭科の2教科に分離。美術科の週時数2・1・1と時間数が減少。

- 1959年 \*白色セメントによる造形活動。
- ・第12回全国図画工作科教育研究大会で、全国中学校図画工作連盟発足。
  - ・民間教育団体「美術教育を進める会」発足。「新しい絵の会」組織改編。
  - ・国立西洋美術館が開館。第2次日米安保条約発効。

- 1960年 \*第1回の東京都図画工作研究発表会開催。
- ・全国小学校図画工作教育連盟発足。
  - ・高等学校指導要領改訂。

- ・安保条約反対運動。岸内閣総辞職。社会党浅沼委員長、刺殺される。

1961年 \*第2回東京都図画工作研究発表会を開催。関東甲信越静地区造形教育研究大会を併催。

- ・全国図画工作連盟、全国大会を全国造形教育研究大会と改称。
- ・小学校新指導要領全面实施。日本教職員組合、全国一斉学力テスト実施反対運動展開。

1962年 \*東京都図画工作研究発表会を研究大会と改称。

1963年 ・第16回全国造形教育研究大会、東京開催。

- ・教科書無償配布。アメリカ大統領ケネデー、暗殺。

1964年 \*会運営の民主化の声、役員改選で会議紛糾。

- ・東京オリンピック開催。東海道新幹線開通。

1965年 \*東京都連合美術展廃止の動きに対し、自前で展覧会を継続。

- ・INSEA東京大会開催。全国造形教育連研究大会、関東甲信越静地区造形教育研究大会と共催。大会テーマ「科学と美術教育」
- ・中央教育審議会、「期待される人間像」中間答申。
- ・全国美術振興大会を日本美術教育連合と高等学校が共催で開催。教育課程審議会へ要望書提出。

1966年 ・中央教育審議会「期待される人間像」発表。

- ・文部省、「全国一斉学力テスト」中止。
- ・政府、「建国記念の日」を2月11日と決定。反対運動が起こる。

### Ⅲ 1967年～1979年（教育改革の動きと反対運動）

1967年 \*初めて専科教諭が会長となる。

- ・東京都知事に美濃部当選。革新都政開始。小笠原諸島、日本帰属。

1968年 \*会発足以来20年経過、記念誌発行。

- ・アジアINSEA会議、東京開催。
- ・小学校指導要領改訂。図工科の名称「造形」の意見、「図画工作」と決定。
- ・大学「学園紛争」多発。東大、入試中止。

1969年 \*INSEAユーゴ会議で、東京の児童画、金賞受賞。

- ・中学校指導要領改訂。美術科週時数、1年2時間、2年2時間、3年1時間。工芸の領域が追加。
- ・アポロ宇宙船、月面着陸。日本、国民総生産世界第2位。

1970年 \*シンボルマークを作成。



- ・中央教育審議会「高等学校の改革に関する基本構想」「初等中等中等教育に関する基本構想試案」発表。日教組、「教育制度検討委員会」設置。
- ・公害問題、深刻化。万国博覧会開催、「世界児童画展」同時開催。

1971年 \*会長に12時間の時間講師が配属される。会長志田氏「東京都教育功労賞」受賞。

- ・日教組教育制度検討委員会「日本の教育はどうあるべきか」第1次報告書。
- ・中央教育審議会「学校教育制度全面改革プラン」答申。文部省、幼稚園教育振興十ヶ年計画作成。

1972年 \*第25回全国造形教育研究大会を本会主導で開催。テーマ「人間の未来を指向する美術教育はなにか」

- ・文部省、詰込み教育是正。指導要領の弾力的扱いを通達。
- ・日教組教育制度検討委員会「日本の教育はどう改めるべきか」第2次報告書。日教組教育黒書「市販テスト—その実態と内容」発表。
- ・札幌冬季オリンピック開催。沖縄日本復帰。中国と国交樹立。

1973年 \*役員改選で紛糾。会長代行を置く。美術教育審議会発足「人間性の回復、週5日制度の推進、専科制度の意義、他教科との関連、教育制度・内容の検討」の5項目を審議。臨時総会開催。会長代行を会長として承認。

- ・日教組教育制度検討委員会、第3次報告書。物価急騰、オイルショック。

1974年 \*美術教育審議会、週5日制・専科持ち時数審議、持ち時数を週18時間と設定し、校長・組合分会長・図工主任へ要望書を配布。

- ・日教組教育制度検討委員会最終報告書「日本の教育改革を求めて」発表。
- ・政府、人材確保法案を提出。「教頭職法制化法案」が国会で可決。
- ・アメリカでウォーターゲート事件。ニクソン大統領辞任。佐藤英作、ノーベル平和賞受賞。田中首相、金権で辞任。国立大学共通1次試験実施。

1975年 \*吉田前理事長、日独交換教授成立で、ドイツへ出発。美術教育審議会「学校5日制と図工専科の持ち時数確保」について審議、以降教育課程審議会に要望書を送付。

- ・日教組教育制度検討委員「望ましい教育課程の在り方」中間発表。
- ・教育課程審議会「教育課程の基準に関する基本方針について」中間発表。
- ・人事院「公務員の週休2日制」の実施を発表。

1976年 \*第22回全国造形教育研究大会を本会主導で開催。テーマ「緊迫せる教育課程にどう対処するか」。要望書を文部省へ提出。

- ・文部省、「主任」制度の導入。教育課程審議会「教育課程の改革案」発表。

・ロッキード事件露呈。田中角栄逮捕。

1977年 ・文部省、新教育課程告示。基礎基本の充実、学習内容の精選。ゆとりある充実した学習が基調。図画工作科、5領域（絵画、彫塑、デザイン、工作、鑑賞）から2領域（表現、鑑賞）に。1年生の週時数が2時間から1時間に減少。造形的あそびの新領域誕生。

1978年 \*全国小学校造形教育連盟の会長、事務局長は本会が担う。

1979年 ・文部省、指導要録改訂。

#### IV 1980年～1984年（専科教諭存続の運動。ワークショップの展開）

1980年 \*美術教育審議会、新指導要領内容検討。東京都、専科教員の削減案提出。本会、東京都教育委員会、都議会各党へ要望書提出。現状を維持。研究大会で「素材と行為」に着目した「ワークショップ」を展開。

・文部省、新指導要領実施。「ゆとりある、しかも充実した教育」

1981年 \*ドキュメント「素材に出あった子どもたち」刊行。

・第34回全国造形教育研究大会において、西ドイツのハーマン・ブルックハルト教授、記念講演。

1982年 \*ハーマン・ブルックハルト教授の講演会開催。同氏の著書「現代ドイツにおける美術の授業と子どもの絵」を翻訳刊行。

・東北・上越新幹線開通。中曽根内閣誕生。中学校、校内暴力拡大。

1983年 \*美術教育審議会、図画工作科の教科性についての検討。資料センター開設。第36回全国造形教育研究大会を本会主導で開催。テーマ「独自性を見直す－国際的視野に立った美術教育」

・大韓航空機撃墜事件発生。田中元首相、実刑判決。

1984年 \*実技研修会開催。全科免許所有の図工専科が漸増。美術教育審議会、教科性についての公開討論会開催。

#### V 1985年～1994年（研究実践の深化。継続した出版活動、新しい教育改革に対する運動の展開）

1985年 \*第25回関東甲信越静地区造形教育研究大会を、本会主導で開催。テーマ「素材と創造者たち－教育における重大性を問う」

・文部省、いじめ対策。臨時教育審議会、教育課程改訂第1次答申。教育課程審議会発足。日本航空ジャンボ墜落。

1986年 \*東京都連合美術展（都展）と同時に都展研究会開催。鑑賞教育

の研究を展開、「美の領土へー新しい鑑賞授業の実践」刊行。40周年記念座談会を開催。

- ・臨時教育審議会、教育課程改訂第二次答申。教育課程審議会、中間まとめ。
- ・全国中学校美術教育連盟、緊急理事総会開催。授業時数の削減への対策。
- ・中野富士見中学校でいじめによる自殺。三原山200年ぶりの大噴火。

**1987年** \*美術教育審議会、「都図研大会総覧」刊行。

- ・全国造形教育連盟、緊急全国代議員会開催。「新教育課程に向けて美術造形教育をどう守り、どう充実させるか」アピール採択。国公立大学芸術5大学長会、文部省に要望書提出。全国造形教育連盟、教育課程審議会へ要望書提出。要望内容「小学校低学年図工科継続、中学校美術科授業時数維持、小中学校美術専科教員拡充、高等学校美術必修選択四単位確保」。全国造形教育連盟「教育課程問題」資金カンパ活動開始。
- ・教育課程審議会、次期教育課程改訂の本答申を提出。

**1988年** \*研修会「シュタイナー学校の美術教育」。都中美と共同シンポジウム開催、テーマ「学校・社会・美術」。講演会、テーマ「シュブレンゲル美術館におけるワークショップ」。都中美と共同研究大会開催。テーマ「創造の大地をめざして」

- ・全国造形美術教員養成大学協議会と教育大学協会美術部門、全国造形教育連盟大学部会を設立。

**1989年** \*都図研城西地区の児童画、アメリカ・ピッツバーグの小学校を巡回。都図研有志「児童幼画堂」、「素朴の原理」を刊行。

- ・文部省、新指導要領の移行措置通達。中学校2年生週時数1～2の告示。

**1990年** \*美術教育審議会再発足。

- ・新教科書編集作業開始。文部省、指導要録全面改訂に着手。
- ・フランク・チゼック展を日本児童手当協会+武蔵野美術大学主催で開催。

**1991年** \*美術教育誌「美育文化」に都図研、「造形フォーカス」連載。美術教育審議会、答申「新しい学力観にどう対応するか」。セゾン美術館と共同で美術館鑑賞「スクールあそびじゅつーヘンリー・ムーア展」企画。教科性検討委員会、実験実践集「アーツスクランブル」を刊行。

- ・全国造形教育研究大会東京大会。テーマ「審美教育と英知」。また、海外フォーラムをアジアインセア会議として開催。

**1992年** \*都中美と共同でパネルディスカッション開催。テーマ「これからの美術教育の可能性を探る」。国立博物館において、都図研と国立博物館共催で「

博物館ガイドツアー」開催。組織検討委員会発足、規約、ブロック再編を検討。セゾン美術館と共同で美術館鑑賞「ギャラリートークあそびじゅつーヘンリームーア展」実施。シンポジウム「これからの図画工作教育は……」開催。日本・ドイツ美術館シンポジウムに都図研会長、森内氏パネラーとして出席。

- ・新指導要領全面実施。新しい学力観「生涯学習の観点に立ち、自ら学意欲や思考力・判断力・表現力」と、「心豊かな人間の育成、基礎基本の重視と個性教育の推進、自己教育力の育成、文化と伝統の尊重と国際理解の推進」
- ・文部省研究開発学校指定校、「新教科の設定とカリキュラムマトリックス」発表。
- ・アジアインセア南昌会議開催。

1993年 \*公開授業を3回開催。ビデオによる授業実践記録発行。シンポジウム開催。テーマ「今、教科性を問う」。シンポジウム「今、都図研に問われるもの」を開催。副会長、園田氏「東京都教育功労賞」受賞。横浜美術館において美術館連絡協議会主催によるシンポジウム開催。都図研会長、鈴石氏パネラーとして参加。インセア・モントリオール会議開催。都図研、初めて分科会で提案。美術科教育学会第4回シンポジウムに都図研会長、鈴石氏パネラーとして出席。

- ・全国造形教育連盟、全日本音楽教育研究会・全日本書写書道教育研究会、芸術教育懇話会開催。
- ・新学習指導要領中学校全面実施。2年生の週時数が1～2の波型表示。

1994年 \*授業実践記録を刊行。森内会長「東京都教育功労賞」受賞。東京都ルネッサンス委員会と共同で東京都美術館において、ギャラリーツアー「ニューヨークに生きたアーティストたち」を実施。その報告書を作成。伊勢丹美術館と共催で「美術を楽しむ時間」美術館鑑賞事前授業、夏休み中に親子ギャラリーツアー実施。そのドキュメントを作成。美術科教育学会と共催でシンポジウムを開催。テーマ「子どもと教師」

- ・全国造形教育連盟、日本美術教育連合・西日本教育美術連盟と全日本造形・美術教育者会議を設立、総会を開催。次期教育課程改訂に対応。第2回芸術教育懇話会を開催。